

向日が丘支援学校改築基本構想検討会議の議事要旨

1 日時

平成 30 年 9 月 11 日（火曜日）午前 10 時から正午まで

2 場所

京都府立向日が丘支援学校

3 出席者

【委員】

青木委員、池田委員、太田委員、岡本委員、外田委員、能塚委員、平岡委員、丸岡委員、水上委員、山本委員（欠席委員 1 人）

【オブザーバー】

齋藤乙訓教育局長、時田乙訓保健所長

【事務局】

小橋教育次長、細野指導部長、平野管理課長、安田特別支援教育課長他

4 議題

(1) 開会挨拶 京都府教育庁 小橋教育次長

(2) 委員紹介

(3) 座長選出 丸岡委員を選出

(4) 事務局説明

ア「検討会議の開催趣旨」

イ「京都府の特別支援教育の現状」

(5) 学校見学

(6) 向日が丘支援学校の歴史、現状、課題

(7) 基本構想検討項目提案

(8) 意見交換（主な意見）

ア 改築に期待するもの

- (ア) 学校は、児童生徒がほとんどの時間そこで生活をする場所であり、「特別支援教育を推進し、様々な児童生徒に対応した教育環境の整備」「文化やスポーツ、地域の歴史やコミュニティを学ぶ活動拠点の整備」の2点をまずは充実させてほしい。
- (イ) 限りある予算の中で、過大な施設設備を整備するのではなく、どのように教職員が使っていくのかというソフト面を考えなくてはならない。
- (ウ) 安全面を確保しながら、地域との交流を深めていただきたい。その上で、災害時に帰宅困難になった場合、また避難所になった場合等を想定した視点も取り入れてほしい。
- (エ) 生きていくための力を地域ぐるみで付けていくために、小中学校との連携も大切にしてほしい。教育相談、カウンセリング活動についても、充実させてほしい。
- (オ) 子どもたちの進路として、就労を含めた将来の見通しを保護者の方は考えておられる。施設設備だけではなく教育課程を整えていく中で、そうした進路面での不安を払拭できる支援学校を実現してほしい。

イ 学校と福祉との連携について

- (ア) 障害者福祉の分野では、地域生活を支える拠点が求められており、教育と福祉の連携を密にした複合的な施設が必要である。また、福祉人材が不足しており、学校と連携して育成できるような機能を持たせることはできないか。
- (イ) 以前は施設の中で暮らしていた障害者が、今は地域で暮らすようになってきている。その生活を支援できるよう、教育と福祉がそれぞれの役割を果たしていける施設・整備としてほしい。